



# STOP 糖尿病

糖尿病ケア通信第 10 号 2024. 2. 19 発行

## ステロイド糖尿病

ステロイド薬は膠原病、気管支喘息、肺炎、皮膚疾患、アレルギー疾患、がんなど様々な病気の治療薬として使われます。

ステロイド糖尿病の病態は、**インスリン抵抗性**と**肝臓からの糖放出の亢進**です。また、ステロイドは筋肉や脂肪組織といったインスリンに反応して糖を取り込む臓器において、**糖取り込みを抑制**します。よって、血糖値が上昇します。糖尿病を発症していなかった人は、一時的に高血糖になってもステロイド薬を減量・中止すれば血糖値は下がります。しかし、長期投与や高血糖を放置した場合は、ステロイド薬をやめても高血糖が続き、糖尿病が残存する場合があります。

### 《ステロイド薬の作用時間》

プレドニン	投与後 2~3 時間後に上昇し、5~8 時間後にピーク
デキサメタゾン	作用時間が長く、翌日まで影響する



### 【治療方針】

1. 経口糖尿病治療薬  
DPP4 阻害薬、メトホルミン、 $\alpha$ グルコシダーゼ阻害薬、グリニドが候補
2. インスリン療法  
随時血糖値 300 mg/dl 以上は**絶対的適応**で早期に使用してもよい。  
**超速効型インスリンの使用が基本**。持効型インスリン併用の場合、早朝空腹時血糖値は低い傾向である。ステロイド薬は通常、**朝内服**するため、**昼から夕にかけて血糖値が上がる**ため昼のインスリン量が多くなる傾向。
3. GLP-1 受容体作動薬  
食後高血糖抑制効果を期待する。早朝空腹時の低血糖リスクが小さい。

### 【患者支援】

- インスリン療法が開始となることが多く、**インスリンの自己注射、自己血糖測定の手技**を覚える必要があるため、**早期に支援を開始する**。(患者にとっては同時に 2 つの手技をおぼえなければならず、負担となることが予測されるため)
- ステロイド治療により、食欲増進作用により過食傾向となるため、体重増加に注意が必要。食事療法についても支援していく。
- 長期のステロイド治療をしている方は、骨粗鬆症による骨折の危険性があるため、運動療法は注意が必要。